

公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 2023 年度事業報告

2024 年 5 月 23 日

公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 理事会

2024 年 6 月 8 日

公益財団法人 淀川勤労者厚生協会 評議委員会

【1】わたしたちをとりまく情勢

新型コロナウイルス感染症の広がりの中、国は 2023 年 5 月 8 日から新型コロナウイルス感染症の扱いを 5 類(インフルエンザと同じ)に移行しました。それを機に、医療機関や看護事業所への補助金・特例加算は随時打ち切られました。中医協の資料でも、2023 年度の一般病院の経営はマイナス 10%以上との資料も示され、医療機関、介護事業所ともに史上最高の倒産・廃業数となっています。対米公約である軍事費の 2 倍化を優先する政府は、2024 年度トリプル改定において、わずかな医療介護従事者への賃上げ策は講じたものの、医療機関や介護事業所が経営を支える改定は行われませんでした。多くの医療関係団体、医療や介護を受ける側の個人・団体「このままでは続けられない」との思いを強くしています。

その中でも、私たちは民医連綱領に基づく「まず診る」「援助する」「なんとかする」の立場に立ち、全事業所で役職員が役割を果たし、医師会や救急隊など地域の機関と連携し、コロナ感染に立ち向かいながら一般診療への対応を続けてきました。

コロナ禍で噴出した住民の貧困と格差の拡大は、新自由主義的改革によって構造的につくられた暮らしを支える社会的基盤の不安定さや生活困窮に対応すべき社会保障の脆弱さによってもたらされています。そしてこのことが国民の健康権を大きく脅かしています。

大阪府下自治体の多くは、物価高騰の中で引き下げ要求の高い、高すぎる国保料や介護保険料に対して必要な水準の会計繰り入れを行わず、大阪市は前期に続き介護保険料が日本一高い自治体となりました。能登半島地震で中止の声が広がる中、「復興よりも I R・カジノ」の立場崩さず、来年 4 月のスタートにむけがむしゃらです。

私たちは、医療者の立場からギャンブル依存症を生み出す恐れがあり、成長戦略としても疑問の多いカジノ誘致についての見直しと社会保障への公費投入を求めています。

【2】法人の役職員の力を結集し、民医連・公益法人の理念実現をめざして医療介護の複合体としてめざした取り組み

2023 年度は、公益財団法人として民医連綱領と定款に定めた理念の実現をめざした活動を進めること。法人の中長期計画「淀協 80 周年プラン」の決定と実践に足を踏み出す年と位置づけ、事業活動を行いました。

80 周年プランでは「地域に深く根ざし、『無差別・平等』をつらぬき、すべての人びとのいのちと健康を守り、ともに幸せを生み出す民医連の公益法人として輝こう」「地域から信頼され、地域とともに歩む淀協職員として、人権感覚を磨き、専門性と総合性をもつ民医連の職員集団として成長しよう」「淀協の新しい未来を創る事業の成功に向け、確かな経営・財政基盤をつくりあげ、前進しよう」の 3 つを柱に

中長期の事業計画を定めています。

今年度は、旧福島医療生活協同組合4事業所が2023年10月に事業譲渡の形で淀協の仲間となり、より広い地域80プランの実践をすすめる事となりました。医療介護の複合体の事業所として、すべての事業所がコロナ対応をはじめ、無料低額診療や相談活動などの無差別・平等の医療介護活動に取り組みました。

職員育成では、初の新任管理者研修が各職種19名の参加で開催されました。民医連運動、健康友の会、HPH活動をはじめ管理者に求められる医療・介護の安全、労務管理について学ぶ機会となりました。また、この間の医師養成の実績の評価の上に、初期研修の受け入れが3名認められ、基本枠から1名増を実現しています。

経営の到達としては、診療報酬、介護報酬のコロナ特例加算が3億円近く減少する中、当期利益および償却前利益で一定の利益を確保できた結果となりました。コロナ補助金に続き、コロナ加算も激減する厳しい経営環境の中、80プランで描いた5億円の償却前利益を確保する事は出来ませんでした。西淀病院の病床構造の転換、患者実数を増加させている診療所外来の強化、在宅管理件数1,500件めざした在宅事業部の創設など、具体的な施策を講じながら、2024~2025年度の課題として克服していきます。

【3】無差別・平等の医療・介護事業

(1)患者・利用者数の動向

西淀病院(218床)は、入院件数5,672件、前年差283減、延べ患者数77,401人、前年差1,706減、新入院件数は3,298件、前年差216件増となりました。1日平均は211.5人、前年差4.1人減でした。日当円は41,519円、前年比で1,905円減となりました。入院日当円の減少は、コロナ加算の廃止の影響を大きく受けています。救急搬送受け入れは、3,123台、前年比で265台増となりました。救急車応需率は82.6%。救急車受け入れからの入院は37%でした。

外来は、一般、専門外来の他、24時間365日いつでも対応する救急外来、総合外来、禁煙外来、物忘れ外来、生活習慣病外来を実施し、年間153,887件、225,597人の延患者の診療を実施しました。透析患者は月平均68名、のべ患者件数は9,961回(月平均830名)の対応をしてきました。

介護老人保健施設よどの里(短期入所療介護含み100)は、延33,603人(占床率92.1%)、予算目標98.0%でした。7月と年末年始の2回クラスターが発生した影響がありました。看護小規模多機能らくらく(定員29人)は、延登録数292人(月平均24.3人)で予算差20人減(93.6%)で予算未達でした。前年度差でも△2人でした。訪問看護ステーション(5ステーション、1サテライト)は、延訪問数30,670人で予算差3,030人増(109.8%)前年差624人増(102.0%)、予算前年ともに超過となり、3年連続で前年比改善しました。訪問介護は、3事業所から10月の法人合同により4事業所になりました。延訪問回数33,296人で前年差3,261人減(91.9%)、ヘルパーの減員が主な要因です。通所介護(3事業所定員65名)は、延15,469人で予算差2,350人減(86.8%)、前年差556人減(96.5%)と予算前年ともに後退しました。認知症対応型通所介護は、3事業所(定員32名)を11月末にあいあい(定員12名)を廃止し、延利用数5,109人で予算差1,718人減(74.8%)前年差1,291人減(79.8%)でした。通所リハビリテーション(2事業所定員69名)から10月に法人合同により1事業所増えました(3事業所定員109名)。延利用は、15,349人で前年差増減はほぼありません。訪問リハビリテーション(1事業所)はのべ訪問数4,496回で予算差109回減(97.6%)、前年差397回(109.7%)増でした。

居宅介護支援事業は、10月から法人合同により1事業所増え7事業所となり、延プラン数は、13,620件、予算差189件減(98.6%)、前年差310件減(97.7%)でした。

いずれの事業も人員の減少があり確保が課題となっています。

(2)無料・低額診療事業

2023年度の無料・低額診療・老健の実績は、延べ15,688人(減免患者+生活保護患者※無低率(減免患者数)は減免患者+生活保護患者でカウントされる。2023年度実績は53,193人となっています。コロナ禍で地域の人々の生活困難と経済的格差が広がる中、いのちを守る砦とし等の立場をつらぬき、地域のすべての人々に対する事業として制度活用を広く紹介し、社会諸制度の活用に結びつけていくための活動の強化を進めます。

(3)無差別・平等の医療事業

2024年3月31日現在、法人の医療事業は1病院、11診療所、1社会医学研究所となっています。

西淀病院は「断らない」、24時間365日入院、救急・急患を受け入れてきました。「いのちの平等」の立場から一切、差額ベッド代金は徴収していません。外来診療(各専門外来、救急外来、総合外来、禁煙外来、物忘れ外来、生活習慣病外来等)、診療所事業、リハビリテーション、血液透析、健診・相談活動、福島原発避難者、アスベスト被害者、水俣病検診等及び医療・生活相談活動、無料法律相談を含む、在宅医療・退院支援、生活困期のために受診を控えている人たちへの無料・低額診療事業を通じて、すべての地域住民を対象に、医療を受ける権利である受療権を守る事業をすすめてきました。また、地元での防災拠点として医療、福祉避難活動を実施してきました。コロナ感染拡大の中で、発熱外来の開設、新型コロナウイルス感染症患者の入院受け入れ医療機関として、大阪府からの病床の確保要請に応え、地域医療に貢献してきました。

全医科事業所は、経済的理由による受診困難な地域住民への相談活動をすすめるとともに、社会福祉法にもとづく無料・低額診療・老健事業を実施してきました。外来は、一般、専門外来の他、24時間365日いつでも対応する救急外来、総合外来、禁煙外来、物忘れ外来、生活習慣病外来を実施し、年間153,887件、225,597の延患者の診療を実施しました。公害患者、大気汚染患者の治療、リハビリテーション治療の要求も高く患者を受け入れてきました。また、11診療所で在宅医療にとりくみ在宅管理患者が増加しつづけています。月平均936件の在宅管理となり、地域からの要求はさらに広がりを見せています。淀川区「なごみとあいの在宅相談センター」の開設後、淀川医療機関をはじめ地域との連携が強化されています。発熱外来にも積極的に取り組み、病院をはじめ11診療所では外来・往診の対応をすすめてきました。「ワクチン難民を生み出さない」コロナワクチン接種にも積極的に取り組みました。

(4)無差別・平等の介護事業

2023年3月現在、指定介護事業は28介護事業所です。介護老人保健施設、看護小規模多機能施設、訪問看護ステーション、訪問介護ステーション、認知症デイサービス、通所デイサービス、通所デイケア、訪問リハビリと6つの居宅介護支援事業所などの介護事業所を実施し、介護を必要とする地域住民の介護を受ける権利を守る事業を行ってきました。介護老人保健施設よどの里(100・ショートステイ・

デイケア・訪問リハビリ)では、在宅強化型老健として超強化型を取得し、地域の医療、介護連携の要の役割を果たし、医療と介護との切れ目ない連携と24時間365日対応を重視し、利用者、家族の事情を考慮し対応してきました。また、無料・低額老健事業を実施し、生活困窮者の利用料の軽減をはかる事業を行ってきました。

在宅総合センターらくらくは、24時間365日対応型の在宅を支える看護小規模多機能施設として通所、泊り(1日9人の臨時の泊り等も対応)、夜間も対応の訪問看護、訪問介護、相談、助言等の機能を備えています。また、「地域共生社会」の実現、地域包括ケアの一翼を担い地域包括支援センター、医師会、歯科医師会、薬剤師会、社会福祉協議会、行政機関等と地域連携を重視してきました。

(5)無差別・平等の障害福祉サービス事業及び地域生活支援事業

2023年3月現在、措置障がい福祉事業は、5事業所です。居宅介護、重度訪問介護、同行援護、移動支援事業、計画相談事業、自立支援医療(訪問看護)等を提供してきました。

【4】健康増進事業

誰もが安心して健康で暮らせるまちづくりを目的に、西淀病院(日本で18番目、大阪府下で2番目)はじめ、法人内全ての事業所(診療所・介護事業所グループ・日本で62番目)が、WHO(世界保健機関)HPH(Health Promoting Hospital & Health Services:地域健康増進事業所)の認証を受け、地域のすべての住民を対象に、保健相談員成や健康講座、健康教室、健康診断・健康指導など保健予防・健康増進活動をすすめてきました。コロナ感染拡大で活動の制限をせざるを得ない状況となっていましたが、健康塾、防煙教室、各種健康講座、健康教室、健康友の会と協力・連携した地域での健康増進活動など、活動可能な条件を工夫し、再開した取り組みもあります。西淀川区・淀川区各小学校高学年対象の「防煙教室」を要請に応え実施しています。コロナ感染の影響もありながら2023年度は中学校1校、小学校5校、年間6回開催(2019年度は14校で開校のべ16校)しました。

のぞと診療所では感染防止対策をとりながら20名の制限としながら「認知症予防教室」が取り組まれ、患者・健康友の会の会員が参加する取り組みとして11回開催されました。

コロナ禍での生活、健康支援活動として、フードバンクの取り組みに地域の実行委員会に参加、協力をすすめてきました。2023年度12回開催、約1750名の方が利用されており、地域の中での助け合い事業が前進しています。地域に密着し、地域との共同を広げた取り組みを進めました。

【5】その他の公益事業

(1)職員育成

可能な条件の中で実習依頼を受けてきました。コロナ禍以前、医師をはじめ医療従事者に対する研修教育及び医学生、看護学生の実習受け入れ、小・中・高校生を対象に医療体験企画を通じて地域医療の魅力、やりがいを伝え、将来、地域医療を担う医師、看護師の育成をすすめてきました。

西淀病院は、厚労省医師臨床研修制度による基幹型臨床研修病院としての指定を受け、2023年度もフルマッチし初期研修にとりくんでいます。後期研修は、総合診療医養成プログラムにもとづき、総合診療能力を有する医師養成を目的に西淀病院及び診療所にとりくんできました。また、「大阪家庭医療センター」の基幹病院及び診療所として総合診療医養成を行ってきました。日本専門医機構による新専

門領域である総合診療専門医機関として、「西淀病院総合診療専門研修プログラム」での研修を行っています。

地域医療を担う医師、看護師を養成するために、医学生、看護学生の臨床実習の実施及び中・高校生を対象にした1日医師体験、看護師体験、医療体験企画等を行いました。医学生実習は30人、看護学生実習は353人受け入れました。高校生1日医師体験は30名(病院25、千北2、茨木2、FCあい1)、高校生1日看護体験16校70名の参加がありました。

(2)調査・研究に関する事業

1979年に開所した淀川勤労者厚生協会・西淀病院附属大阪社会医学研究所は、労働起因性疾患の職業病外来、職業病検診、労働環境調査、産業医活動及び調査・研究・資料収集事業にとりくんできました。

社会医学的な医療課題への寄与として、広島・長崎の被爆者の健診・相談活動、水俣措置にもとづく水俣病掘り起し検診・相談活動、アスベスト被害者検診・相談活動、福島第一原発事故による避難者検診・相談活動等にとりくむとともに、高齢者「熱中症」調査・相談、経済的理由による「手遅れ死亡」調査等、現代社会に表出する「格差と貧困」問題へのアウトリーチ、糖尿病の負担割合、防煙教室、調査・研究・資料収集にとりくみました。今期は、PFAS汚染に関する摂津の地域住民の不安に応え、淀協や社医研が中止となって大阪PFAS問題を考える会を結成、1,153件の血液採取を行い、その実態を明らかにする取り組みを行いました。

【6】淀協80周年プランの実践を進めよう

2023年度「淀協80周年プラン」に基づく実践として、地域の声が反映した茨木診療所の新築工事が完成しました。竣工式を診療所内で行える空間が確保されており、まちづくりに活かされる診療所としての役割が期待されます。

相川診療所では、現敷地内での新診療所建設の議論をすすめてきましたが、建設工事期間の機能保持が困難と判断、800メートル離れた場所に新診療所建設用地を確保しました。地域から寄せられた多くの声をもとに、他の診療所の経験にも学びながら設計工程がすすんでいるところです。

「淀協80プラン」では、深く地域に根差し、「無差別・平等」を貫きすべての人々のいのちと健康を守るとともに幸せを生み出す民医連の公益法人として、社会的責任を果たしていくことが求められます。それは、「無差別・平等の医療と介護事業」及び「すべての地域住民を対象業」を実践し、健康の自己責任ではなく、「健康の自己主権」という法の理念が活かされて、現在深く進行している「格差と貧困」の拡大や戦争をする国に突き進もうとしている流れを断ち切り、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めていくことです。

また、中長期の事業計画の中には、創立100年をめざして事業継続していくために、西淀病院・よどの里・相川診療所の法人内事業所のリニューアルが計画されており、大規模な投資が必要です。成功のためには、必要な財務基盤を作っていく必要があります。

【7】2023年度決算概況

(別紙)

【8】法人組織の概況

(1) 理事会開催状況 別紙

(2) 組織図 別紙

(3) 事業所・施設の状況

〈医療事業〉

- ・西淀病院 (218 床) 大阪市西淀川区野里 3-5-22
- 西淀病院附属大阪社会医学研究所 大阪市西淀川区野里 3-5-22
- ・のざと診療所 大阪市西淀川区野里 3-5-24
- ・姫島診療所 大阪市西淀川区姫島 2-13-20
- ・千北診療所 大阪市西淀川区大和田 5-5-3
- ・ファミリークリニックなごみ 大阪市淀川区加島 4-2-17
- ・ファミリークリニックあい 大阪市淀川区西三国 1-3-29
- ・此花診療所 大阪市此花区春日出北 1-1-25
- ・伝法高見診療所 大阪市此花区高見 2-5-9
- ・酉島診療所 大阪市此花区酉島 4-2-3
- ・相川診療所 吹田市南高浜町 32-19
- ・茨木診療所 茨木市元町 4-16
- ・野田診療所 大阪市福島区野田 3-13-44

〈指定介護事業〉

- 《1》介護老人保健施設よどの里 (100 床) 大阪市西淀川区姫島 2-13-20
- 《2》同 短期入所療養介護 大阪市西淀川区姫島 2-13-20
- 《3》同 通所リハビリテーション 大阪市西淀川区姫島 2-13-20
- 《4》同 訪問リハビリテーション 大阪市西淀川区姫島 2-13-20
- 《5》看護小規模多機能型居宅介護らくらく 大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
- 《6》訪問看護ステーションコスモス 大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
- サテライトあい 大阪市淀川区西三国 1-3-29
- 《7》淀協訪問看護ステーションえがお 大阪市福島区海老江 7-3-16
- 《8》淀協ホームヘルプステーションみてじま 大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
- 《9》デイサービスセンターみてじま 大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
- 《10》淀協ケアプランセンター 大阪市西淀川区野里 3-6-5
- 《11》ケアプランセンターみてじま 大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
- 《12》ケアプランセンターあい 大阪市淀川区西三国 1-3-29
- 《13》デイサービスセンターハウス安住 大阪市西淀川区竹島 3-2-12

《14》 デイサービスくつぬぎハウス	大阪市西淀川区姫島 2-13
《15》 ふれあいデイサービス此花	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《16》 此花診療所指定居宅介護支援事業所	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《17》 訪問看護ステーションさくら	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《18》 ヘルパーステーションさくら	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《19》 訪問看護ステーションあいかわ	吹田市南高浜町 32-19
《20》 ヘルパーステーションあいかわ	吹田市南高浜町 32-19
《21》 相川ケアプランセンター	吹田市南高浜町 32-19
《22》 相川診療所通所リハビリテーション	吹田市南高浜町 32-19
《23》 デイサービスセンターあいかわ	吹田市南高浜町 32-19
《24》 茨木診療所居宅介護支援事業所	茨木市元町 32-19
《25》 茨木訪問看護ステーション「さくら」	茨木市元町 32-19
《26》 介護支援センターえがお	大阪市福島区吉野 4-5-2
《27》 ホームヘルプステーションえがお	大阪市福島区吉野 4-5-2
《28》 野田診療所通所リハビリテーション (指定障がい福祉事業)	大阪市福島区野田 3-13-44
《1》 よどきょう相談支援事業所	大阪市西淀川区野里 3-6-5
《2》 淀協ホームヘルプステーションみてじま	大阪市西淀川区御幣島 4-3-22
《3》 ヘルパーステーションさくら	大阪市此花区春日出北 1-1-25
《4》 ホームヘルプステーションえがお	大阪市福島区吉野 4-5-2
《5》 ヘルパーステーションあいかわ	吹田市南高浜町 32-19

- | | |
|-----------|----|
| (4) 役員の状況 | 別紙 |
| (5) 職員数 | 別紙 |
| (6) 共同組織 | 別紙 |
| (7) その他 | |

以上